

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっかい生きてます!



「自分達でできることは自分達でやろう!」がモットーの潮騒JTCでは、栗原豊センター長の肝いりで現在、老朽化と3・11大震災で傷みやび割れが激しい本部施設(鹿嶋市宮津台)の外壁改修・塗装工事に、我が作業隊が熱心に取り組んでいます。足場を組んでの危険を伴う作業だけに慎重に進めていますが、今回思い切って青く塗り替えた木造2階建ての建物正面に潮騒JTCのロゴと施設名を大きく描き入れました。既存の看板は控えめで分かりにくかったのですが、これにより成長著しい潮騒の存在感が視覚的にもアップしそうです。

2016

6

初めて経験した 仲間の措置入院について



今回は依存症の民間回復支援施設の責任者として守秘義務に留意しながら、悩ましい問題を記します。先日、潮騒JTCとしては初めて、(元)入寮者の措置入院を体験しました。措置入院とは、精神疾患のある当事者が自分自身や他人を傷つけたりして、何らかの迷惑・犯罪行為をする恐れが大きい場合に、行政が一般市民や警察、検察の通報を受けて、行政措置として本人に入院を強制するものです。病院と入院契約を交わすのはあくまで行政であり、本人や家族の意志は関係ありません。措置入院の対象となった(元)入寮者は7年ほど前に潮騒に繋がった比較的、若い仲間です。彼は少年時代のシンナーに始まり、覚醒剤と処方薬依存のダメージが深刻な重症の依存症者です。潮騒の回復プログラムになかなか馴染めずに途中退寮しては事件やトラブルを起こし、過去の私のように刑務所と往復を繰り返しています。薬物依存症による精神疾患(統合失調症)を発症し、幻覚、幻聴、被害妄想がひどく、暴力的な言動もエスカレートしていました。

困った事に、彼は自分の病気に対する自覚と認知度が低く、良くなったと思い込んで病院の処方薬を勝手に切ってしまう厄介な存在です。頼るべき家族もない孤独な人生なので、施設を出てもトラブル続きで生活もままなりません。どうしようもなくなつては潮騒に助けを求める繰り返しで、今回も警察を通じて「オヤジ、俺を見捨てないでください。また一から潮騒でやり直したいです」と懇願してきました。でも、彼の病気の深刻さは既に回復施設では手に負えないレベルにあり、明らかに精神科病院での(強制的な)入院治療が必要な、とても悪化した病状です。ただ、私としては措置入院がどこか仲間を“権力に売る”ような、マイナス感情をうまく払拭できませんでした。義理人情と男気を信念に据えた過去の任侠道の生き様が脳裏を離れず、彼への後ろ髪を引かれる思いとなって判断を曇らしたのかもしれません。でも、あれこれ迷い悩んだ挙句に「彼の回復のためにも必要な措置だ」と自分を納得させました。

仲間同士がお互いに助け合う当事者活動が命の潮騒JTCですが、このところ以前とは比べものにならないほど、潮騒に登場する仲間達は多様化した病状にあります。こうした困難に頭を悩ましながらも、私は一貫して回復に前向きな姿勢の仲間には、できるだけ門戸を広げています。しかし、もはやリハビリ施設での回復が困難に思えるこうした仲間の増加傾向に、小規模な民間施設の潮騒JTCにできる事には限界があります。その判断を誤ると、自分で自分の首を絞めるようになり、やがては施設運営が立ち行かなくなる最悪の事態も生じかねません。良く見積もっても回復率3割の冷徹な現実を踏まえれば、私の本音の一部に「運よく潮騒に繋がっても、クスリやアルコール、ギャンブルをやめない人はやめないだろうな…」という忸怩たる思いもあります。それだけに今回の措置入院の経験を施設運営のプラスのものとなるように、うまく運用できたらと考えています。(センター長 栗原 豊)

潮騒独自のスマープセミナーなど熱心に見学

小美玉市薬物乱用防止委員会が研修で来訪



小美玉市薬物乱用防止委員会の皆さんと事務局を担う同市福祉課職員の計7人が6月22日午前、デイケア施設のある鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館に視察研修で来訪されました。約2時間の滞在でしたが、施設で毎日実施されているグループミーティングや、前年度から実践している「スマーププログラム」セミナーの様子を見学した後、パワーポイントと栗原センター長の講話を通して潮騒 JTC が取り組む依存症の回復支援と農業を中心とする就労支援活動に理解を深めて頂きました。

今回、一行は潮騒が毎日実践しているグループミーティングに加え、各地に普及し始めている「スマーププログラム」への理解を深めること、潮騒 JTC が整えた特色ある職業訓練・就労支援の取り組みの一端に触れることが視察研修の狙いでした。このため、まず施設のルーティン・ミーティングを手短に見学した後、主目的であるスマープ研修にウエートを置いてもらいました。スマープは依存症の臨床現場で鍛えられた精神科医らによって開発された、認知行動療法に基づく薬物等の再乱用防止に効果を発揮しているプログラムです。

潮騒では、外部研修でいち早くスマープを受講した栗

原センター長がその利点に共感し、前年度から施設プログラムにセミナー形式で採用。参加者には「12 ステップよりも具体的で分かり易い」と好評で、回復プログラムを補完する役割を果たしているようです。潮騒のスマープセミナーではスタッフらを中心にファシリティーターが養成されましたが、この日はそうしたメンバーで特別に構成されました。導入部で雰囲気や和ませるための工夫や配慮があり、テキストを使いながらも堅苦しさを排除した笑いのある進行で、当事者ならではの具体的なやり取りがリアルに設定され、小美玉市の皆さんも引き込まれていました。

潮騒 JTC の活動についてパワーポイントで視覚的にも理解を深めて頂いた後、栗原センター長が自らの回復体験と就労支援に力を入れるようになった経緯をエピソードを交えながら講話し、「仲間と一緒に日々プログラムに取り組むことで私も回復できている。依存症に苦しむ仲間の回復を手助けするため、生涯現役でこの仕事を続けたい」と語り、皆さんから拍手を得ていました。最後には視察研修の参加者代表の方から「貴重な体験ができた。これを教訓に薬物乱用防止活動により一層力を入れたい」との言葉を頂きました。(勝)

潮騒アディクションセミナーに参加して**外部メッセージに
回復の原点を意識させられる**

ほぼ隔月で取り組まれている潮騒アディクションセミナーが5月29日、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館3階の多目的フロアで開かれました。今回は「継続」をテーマに開かれ、デイケアや作業隊メンバーら約70人の入寮者が集中してメッセージに耳を傾けました。最後の30分間は依存対象ごとに3グループに分かれ、普段の“言いっ放し聞きっ放し”ミーティングにはない質疑応答の時間が設けられ、スピーカーとの突っ込んだ話ができました。

今回は、潮騒の入寮者としては珍しく地域の自助グループから繋がり、過去の職業経験を生かして「おらげのかまど」で働いているリョウジさんのメッセージがありました。仲間の導きによって久し振りに調理の仕事に恵まれ、かまどで生き生きと働いているリョウジさんの様子がリアルに伝わり、リョウジさんも「今の仕事を継続していきたい」と熱く語りました。私もリョウジさんと同じアルコール依存症ですが、潮騒に繋がりソーバー(酒をのまない素面の状態)が1年3カ月になります。これまでは施設が提供するプログラムを半ば受け身的にこなす生活でしたが、今回のメッセージによって回復プログラムの原点に思いを強くし、前向きなエネルギーをもらいました。

改めて、自分が潮騒JTCという居場所に繋がっていることに自覚を深め、優れた回復者である栗原センター長が目の前にいることに感謝しながら、より前向きにプログラムに取り組み、その上で「今日一日」の歩みを継続してソーバーを積み上げること、自分の回復人生を5～10年のビジョンで考えることに刺激を受けました。今、潮騒で回復のチャンスを与えられていることに素直に感謝し、施設の仲間はもちろん地域で回復している仲間の姿に励まされ、こうしたセミナーやフェローシップを大事にしてスピリチュアルな成長を目指していきます。(ぶー)



▲毎回、セミナーの最後は「平安の祈り」で締め括られます

潮騒JTC11周年フォーラム・テーマが決まる**「スピリチュアル・コネクション
～広がれ、潮騒の輪!!～」**

潮騒ジョブトレーニングセンターは今年11月27日(日)に、昨年と同じ会場の鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中)で潮騒JTC11周年フォーラムを開きます。このほど開いたプロジェクト会議で、そのテーマを「スピリチュアル・コネクション(魂のつながり)～広がれ、潮騒の輪!!～」と決めました。今後は具体的な当日プログラムの内容を煮詰めていきますが、例年と同じように講演と太鼓演奏のコラボレーションを中心にした多彩な企画を盛り込む予定です。

今回のテーマを巡っては、節目となった前年の10周年フォーラムの成功を踏まえ、潮騒の原点を確認して地元の支援者に感謝の意を表し、更なる飛躍に向けて支援の輪を広げようとの趣旨から上記テーマを設定することになりました。ご承知のように潮騒は栗原豊センター長が11年前、孤立無援の困難な状況の中で前史となるダルク関連施設を立ち上げ、少しずつ地元の理解者、支援者を増やし、ソフト・ハード両面から施設としての内実と陣容を整備してきました。その結果、ダルク関連施設としては特長的な就労支援に力を入れる現在の施設運営スタイルが定着してきました。

周知のように潮騒は、施設運営面でそのマネジメント力が評価されてきたのは有難いのですが、半面で支援ネットワークの形成が他より遅れてきました。その反省から今回のフォーラムでは、地元の支援者の皆様に日頃の感謝の意味を込めると共に、改めて当事者活動の意義と支援の在り方を考え合いたいと思います。そして午後からはダルクの顔である近藤恒夫さんや仲間のマーシーからメッセージを受けながら、鹿島灘太鼓と潮騒&支援ダルクによる太鼓パフォーマンスの競演で会場の参加者の皆さんと一緒に目いっぱい弾けられたら、と考えていきます。どうか、潮騒フォーラムへのご参加を宜しくお願い致します。



▲潮騒フォーラムでは毎回、和太鼓とエイサー太鼓で盛り上がります

マリーゴールドやサルビアなどで花壇を彩る**下津の潮騒フラワーロードに
初夏の花植え**

鹿嶋市宮津台の潮騒 JTC 本部施設前の市道(下津海岸通り)を初夏の花で飾り、近所の人たちや通行人、道行くドライバーらの心を和ませようと、今年も入寮者が色鮮やかな花達を沿道の花壇に植えました。栗原センター長が「自分たちの手で施設前の通りを美しい花で飾り、育てることで地域活性化や潤いある市民生活に貢献できた」との趣旨により地元でのボランティア活動を提唱し、4年ほど前から施設のプログラム活動の一環として取り組まれています。潮騒では施設前と向かい側両歩道の約600メートルを「潮騒フラワーロード」と名付け、市の協力を得て初夏の花を定植し、自主管理しています。

今年も梅雨の合間を縫って6月24日に、入寮者が大勢参加して市から寄贈を受けたマリーゴールド(黄色、橙色)とサルビア(赤色)など株分けされたたくさんの花達を手分けして定植しました。仲間達が移植ごてを手に、汗だくになりながら定植作業に精を出した結果、これまで殺風景だった潮騒フラワーロードが、すっかり見違えるようにカラフルな初夏の花達で彩られました。今後、花壇の水やりや除草など夏場の管理に気を配ります。なお、これに先立つ6月2日には、大勢の仲間が参加してフラワーロードの除草作業が実施されました。普段は施設から出たがらない高齢の仲間や体の不自由な仲間も参加し、太陽の光を浴びて元気に花壇の草取り作業に励みました。



◀市から寄託された初夏の花を前に、参加者が工事中の建物を背に記念撮影



▲汗だくになりながらフラワーロードの花植え作業に励む潮騒の仲間達

「素面で見たアヤメはきれいで時間を忘れた」**水郷潮来あやめ祭りに
参加して**

初夏の訪れを告げる人気イベント「第65回水郷潮来あやめまつり」(5月28日～6月26日)も終盤時期に入った6月16日、デイケアの仲間達が会場の潮来市あやめにある水郷潮来あやめ園を訪れました。期間中は潮来花嫁さん「嫁入り舟」やあやめ踊りの披露など、水郷ならではのイベントが企画されて大勢の観光客が訪れました。訪れた当日は短時間の滞在ながらも、デイケアの仲間達が一面に咲き誇るアヤメ(花菖蒲)を鑑賞し、水郷情緒を楽しみました。大所帯となったことから全員参加が難しくなりましたが、潮騒 JTC では隣接市の地の利を生かして毎年、期間中に仲間達が訪れています。

潮来あやめまつりは、国内あやめ祭りのシンボリックな存在です。園内には、白、紫、青、黄色など約500種100万株の多彩なアヤメが植えられており、見事な景観を造る観光スポットです。期間中は園内に架けられた橋の上から、色とりどりのアヤメが楽しめ、地元ではザッパ舟と呼ばれる手漕ぎの「艀舟(ろぶね)」の遊覧運航や夜間のライトアップなどで雰囲気盛り上げていました。数千個もの万燈会(まんとうえ)が園内の通路等に並べられ、日没後に万燈会に火が入ると、例年とはひと味違う幻想的な景観が楽しめたようです。また今回は宵の嫁入り舟も行われて、厳かな雰囲気がより一層引き立てられたと言います。

参加したハマさんは「子供の頃に一度だけ行った事のあるあやめ祭りに、素面(しらふ)になった今、40年ぶりに潮騒のイベントとして参加する事ができ、よい思い出になりました。素面の目で見るとアヤメはとってもきれいで、時間を忘れてしまいました。水郷をゆっくり走る艀舟や高台から見下ろすアヤメ園は最高でした。そうそう、会場には地酒の利き酒(私には危機酒?)の試飲があり、とても飲みたくなりました(笑)」と素直な感想を述べていました。



▲あやめ祭りでは色鮮やかな菖蒲の花と水郷情緒を楽しんだ

第6回「荒波に船出した“鹿嶋潮騒ダルク”時代の思い出」

ユタカ vs トム 対談



写真左から札幌ダルク施設長トオルさん、潮騒 JTC の栗原センター長（ユタカ）、渋谷ダルク理事のトムさん

—— 前はスポンサーシップについての話題でしたが、今回は少し話を進めて栗原センター長が少数の仲間達と施設を独立させた、潮騒 JTC の前身「鹿嶋潮騒ダルク」時代の話の少し振り返ってもらえたら、と思います。逆風の中での鹿嶋潮騒ダルクの船出は大変だったらしいですね。(司会進行・広報部)

一番の気掛かりは ダルクを名乗れるかどうか

ユタカ 若い責任者との対立から鹿嶋ダルクで進退窮まった私は、こりゃあもう自分のダルクを造るしかないなあ、という思いに至った訳です。乗りかかった船だったから、もう後には引き返せない状況でした。ハイヤーパワーが私に「ダルクをつくってもいいよ」と命じたんですかね。金融機関の信用がなくて困難だった私の金策問題が地元の理解者のお陰で何とかクリアでき、運よく鹿嶋市役所前にあった空き店舗と、同じ敷地内の空いていたアパートの2部屋を借りられて、なんとか自前のミーティング場と仲間達の生活の場が確保できた。でも一番の問題は施設の名前をどうするか？ 鹿嶋ダルクとの確執が尾を引いていたから、ダルクを名乗れるだろうか…、と気掛かりでした。トラブったとはいえ私はダルクで回復できた訳だし、ダルクから派生したことには間違いない訳だから、堂々とダルクを名乗って全国のダルクの仲間達とも連携できるようにしたい。そんな思いでした。そこで年を越した平成 18 年の1月頃、思い切ってダルクを創った近藤恒夫さんを都内の日本ダルクに訪ねました。私なりに仁義を通そうとした訳です。

—— その時にはどんなやり取りをしたんですか？ 近藤さんは厄介な問題を持ち込んできたな、っていう迷惑そうな感じでしたか？

ユタカ 恐らく近藤さんの下には私の独立について、あちこちから情報もたらされていたはずでした。険しい表情から、それが読み取れました。で、私の口からいきさつを話して、「自分のダルクを開きたいんです」と明かした。すると近藤さんは、「ダルクの理念を知っているか？」と問い掛けてきた。私が面くらっていると、「自分が当事者であり、仲間を社会に送り出すことがダルクの理念だよ」と。そんな事も分からないでダルクをつくるのか！って、もしかして否定されるのかなと思ったので正直ホッとしました。近藤さんは「その理念があるなら堂々と始めるべきだ」「周囲の批判は気にするな」とも助言してくれました。もう私としては近藤さんの“公認”というか、“お墨付き”をもらったような気がして、とても嬉しかった。近藤さんと直接話しをして、とても強烈な印象を受けました。

間違っても先生になってはいけない

トム 僕も感じるんだけど、近藤さんって独特の雰囲気を持っていますよね。温かなたずまいと包容力を漂わせる、あの感じ。ある意味で「いい加減」なんだけど、どこか人の良いカリスマ性を併せ持つ。それに愛情と厳しさに満ちた言葉を放つ人です。強烈な個性というよりも、いつの間にか引き込まれていくような不思議な魅力を持った存在ですね、僕はそう思います。

ユタカ 近藤さんに会って叱咤激励を受けたことで、自分が独立しようとしていたことは間違いない、私の選択に誤りはなかった、と確信しました。

トム その当時のダルクは当事者が設立して、その名前を名乗るためにライセンスの取得などは必要ないんです。ダルクは自然発生的に設立されていく特殊な施設ですから…。

ユタカ そうなんですけど、長く任侠道の世界で仁義を貫く生き方をしてきたんで、私はトラブルを経ての開設にはできるだけ慎重でありたいと考えました。あの時、近藤さんに初めて会って、施設のリーダーであろうと、経営を担っていく立場であろうと、ダルクにいる以上は自分自身も当事者なのだ、施設にいる全員が仲間なのだ、フラットな関係を忘れてはいけない、という事を学びました。当時の私は、どこかで過剰な責任を背負い込んで、仲間よりも高みに立っていたのかもしれないな、って反省されました。間違っても先生になるようなことがあってはいけない、とね。

■ すぐにアヘン窟のようになってしまった

—— それってリーダーが常に押さえておくべき基本中の基本ですよ。で、その後はどうなりました。

ユタカ ともかくも「鹿嶋潮騒ダルク」を名乗って荒波に船出できたんです。でも、現実には決意が空回りしてね。スタートした施設に「ダルク」の名を冠したのはいいけど、とても依存症の回復施設なんて言える状況じゃなかった。鹿嶋ダルクからの仲間5、6人が行動を共にして鹿嶋市役所前のアパートで細々と活動し始めたんですが、そこに大なる誤算があった。曲がりなりにも仕事（アルバイトでしたが…）をしていれば、なんとか回復に繋がるんじゃないか、という淡い期待です。でも、依存症はそんな単純な病気じゃない。根本の治療や適切なケアを欠いたままでは、例えアルバイトだとしても社会に出て行く訳だからストレスが溜まる。これがスリップに繋がる。今も独立時のメンバーが潮騒に何人か居るけど、当時の仲間はとても病気が深かった。一筋縄ではいかない猛者ばかり。そんなふうだから、施設はすぐにアヘン窟のようになってしまった。私がいなくなると監視役がいらないから、夜には酒は飲み放題、クスリも使い放題…、あの時はさすがに途方に暮れました。

トム そういう時ってありますよ、僕の経験でも。自分の意志を強くして規則強化で乗り切ろうとしても、事態は悪化するだけ。もうそこはハイヤーパワーによる試練として受け入れるしかない。ダメなら潰れるし、見込みがあれば持ちこたえられる。そこでは自分の回復を第一に考えて、状況が落ち着くのを待つしかありません。自分の無力を認めるしかない。

ユタカ そうなんです。混乱の渦中になると、ますます自分が見えなくなる。すると自分の非力を棚上げして、周囲を責め始める。次第に仲間への疑心暗鬼がエスカ

レートして、ますます八方塞がりになる。でも、不思議なものでね。逆境に晒されながらも細々と活動していると、一条の光明が差し込んできたんです。まだまだ回復者としては未熟な私でしたが、少しはプログラムが身に付いていたんでしょうかね。諦めず活動を続けていると、状況が好転してきたんです。

■ プログラムが第一で仕事は二の次三の次

—— 具体的にどう変わってきたんですか。

ユタカ まず自分自身について振り返れば、開設時の多忙化と運営費を巡る金策に追われ、自分の問題に向かう余裕が持てなかった。それが、仲間達のスリップ続出でお手上げ状態になり、それで潰れるなら仕方がないと開き直りにも似た気持ちが生まれた。そして、もう一度回復の原点を見つめ直すしかないなあ、と自分の考えを方向転換してくれました。考え方が逆だったんです。仕事をしていれば回復に繋がるなんて幻想だ、私達にはプログラムが第一で、仕事は二の次三の次だ、と悟りました。活動の基本が12ステップとミーティングに戻ったんです。それは自分の回復のためでもありました。実際、地域の自助グループに通うようになったけど、鹿嶋ダルクの面々に会っても、トラブルになるようなことはなかった。すべては回復を目指しての歩みが最優先なのだ、という確信を得ましたね。

—— 当然、施設としても運営スタイルが変化していきま

ユタカ その頃にはスリップ時の「解毒入院」でお世話になっていた千葉県秋元病院などからアルコール依存症の仲間が少しずつ繋がるようになってきた。これが大きかったですね。入寮者の増加が施設の運営を助けてくれました。それに鹿嶋時代から支援してくれているAA館山グループの恵一朗さんも陰でよく支えてくれたし、膝元の鹿嶋市でも少しずつ支援者が現れ始めた。いつの間にか入寮者が増えてアパートでは手狭になったところに、運よく郊外の農村部にあるクリニックだった建物を借りることができました。汚れてきたけど、県道沿いの塀に「潮騒ジョブトレーニングセンター」の横断幕看板が見えます。あそこに移転してから一層、入寮者が増えて施設運営に弾みがついた。そうして、ヤク中よりもアル中の仲間が施設入寮者の大半を占めるようになったことが、その後の方向を決定づけた。入寮者のマンパワーを活かした職業訓練や就労支援に特化していく流れを形成していくことになったんです。(この項続く)

るみの家

女性メンバーが
母の日・父の日に感想文



女性ハウス「るみの家」メンバーが母の日(5月の第2日曜)、父の日(6月第3日曜)に際して、貴重な感想文を寄せてくれました。毎日施設で依存症の回復を目指す生活ですが、皆さん家庭的には恵まれなかった生育環境ながら、離れていても両親への感謝の思いは共通しています。以下、感想文を掲載します—。

か こ

母の日 私は、母の日なんて自分には無縁だと思っていました。花屋にはカーネーションが並び、きれいな包み紙で売られているお菓子…。母と2歳で離れ、顔さえ覚えていない私は、人生のターニングポイントを迎えている今、素直な気持ちが出てきました。私を捨てた母を恨み、母親の愛情が欲しかった。今でも優しく叱ってくれるんじゃないか、っていう思いも持ち続けています。けどね、お母さん、今は叱ってくれる、一緒に馬鹿笑いをしてくれる、一緒に泣いてくれるルミさんがいます。なので私、今とても充実しています。こんなふうに思えるのは、お母さんが産んでくれたからだよ!! この気持ち、毎日思い続けたいし、本当に心から“ありがとう”って気持ちです。

父の日 父は5~6年前、脳こうそくで命を落としました。同じアディクトだったけど、父はアディクトという言葉も知らずに亡くなりました。そう、私にひどい事をいっぱいした父は、仲間たちに出会う事もできないまま一人淋しく亡くなった。今は私、父が私にした事も病気だっ

たんだ!って思い、許すことも簡単ではなかったけど、父の背中を見て、私は絶対にここでプログラムを終わりににはできないと、改めて思う事ができています。お父さん、ありがとう。お父さんのようにはならないようにしようと思わせてくれて、そして父の分まで、仲間を大事にして行くな。

たかこ

母の日 **父の日** 私の母は、とっても人に好かれる人でした。ですが、私達子供からしたら、ハラ×2、ドキ×2させる母でした。私は幼い頃は、おばあちゃん達に育てられ、母の事を母だと知ったのは小学校に上がった時でした。私にも父はいたはずですが、顔も名前も知りません。私もその事には触れられずにいました。私の弟妹は母にどこにも連れていかれず、淋しい思いばかりしてきたので、その分私がやってきました。悪い人ではないのですが、遊び男に夢中になってしまうタイプらしいです。その母も、私が30歳ぐらいの時に交通事故で亡くなってしまいました。そんな母でも、もう少し弟や妹の為に長生きしてほしいかったです。今では、生きているうちに親孝行をもっとしておけば良かったという後悔ばかりです。でも、弟や妹は素直に育ってくれました。お母さんありがとー。

なあな

母の日 私は毎年、母の日にはカーネーションを母にあげてました。お金が無くても一輪だけでも渡していました。今年は初めてカーネーションを渡さなくて、顔すら見れなくて、部屋に飾ってある写真を見て過しました。そして手紙を送りました。私の母はとても優しく心配性です。今までたくさん泣かせて来た分、これからは回復し母を安心させてあげたいと思います。母がいなければ、私は家族全員に見捨てられ、一人ぼっちになっていました。母には、とても言葉では言い表せないほど感謝しています。これからは泣き顔ではなく、大好きな笑顔をたくさん見れるよう、ここでしっかり人生を見つめ直し、親孝行をしたいです。

父の日 私の父は職人です。いつもホコリまみれで帰って来る父のニオイが大好きです。「家族の為に頑張ってくれたんだ」と思うからです。父が休みの時はよく二人でご飯を食べに行ったり、買い物に連れて行ってもらったり、とても優しい父です。でも、私が道を外れたりすると怒ってくれ、その言葉にはとても重みがありました。実家に居た時は、部屋が隣だったので、父がテレビを見て笑っている声が、私の部屋まで聞こえ、とても

幸せを感じる時でした。父は厳しい時もありますが、何だかんだで心配をしてくれていたのだと、改めて感じたのが留置所に入っている時でした。面会室までは来ず、外で待っていてくれたそうです。いつか結婚する時は、パパのような人と結婚したいと、小さい時からの夢です。

あ み

 幼い頃の記憶が少しずつだけど蘇ってきて、幼稚園の時には似顔絵を描いたりしていたし、小学校に入るとカーネーションを一輪、花束として贈った事もありました。お母さんが大好きでした。でも、思い出せたのはいいけど、今の私には恩返しが出来ていない事にも気づき、私はいつになったら親孝行できるのかな、なんて悔しさもあって、感謝しているのに伝わらないこの気持ち…、今は手紙にしています。この先に毎年来る母の日、次の母の日には再会できていることを願います。お母さんからの愛は素晴らしいものです。胸いっぱいになります。だから私もお母さんのような温かい愛のある母親になれるように努力していきます。私にとって母の日は、とても大切なものになっています。これからもずっと…。

 幼稚園の頃、父の日には父の日参観日というのがあって、お父さんは必ず来てくれたことを思い出しました。私は今、幼い頃の記憶、特にいい事や楽しかった事、幸せを感じた事を忘れてしまっていて、今こうしてペンをとって、やっとなんです、少し蘇ってる、っていう感じです。父は私が 15 歳の時に亡くなりました。そういうこともあって思い出したくなくなっていたのかもしれませんが、でもお父さんは優しい人だったなあ。子供、私と妹の事を凄く凄く可愛がってくれました。お父さんは私達が大人になる前に天国へ行ってしまったので、どう親孝行したらいいかって考えたんです。やっぱり天国でも心配し、見守ってくれていて、私の回復を祈ってると思います。私は、一番大事な回復を続けることで、安心して眠っているのかなって思います。お父さん、いつも私のそばで私を見守ってくれてありがとう。

いるか

 私は子供の頃からお母さんと暮らしたことがないので、何を書いたらいいのかわからないけど、子供の頃から母を恨んできました。私が中学校の時に、母がよく言っていた言葉があります。それは生まれてきてごめんなさい、という言葉です。でも今はきつと、お母さんも私と離ればなれになって、いろいろな思いをしたんだろうなと思います。まーあ、私が子供を産んでから、お

母さんと行き来するようになってから、少しお母さんの気持ちが分かることもあります。それからというもの、お母さんからお金を引っ張ったり、さんざん迷惑を掛けてきました。子供の頃、私を育てて来なかったんだから、このぐらいのこともしても当然だなんて思ってきました。でも今では、親一人子一人なので、何とか元気でいてくれたらな、と思っています。この歳で言うのも何なんだけれど、とても会いたいです。そして何かあった時には、飛んで行ってあげられるような自分でいたい。今はお母さんの幸せを願っています。少しでも長生きしてほしいと思っています。

そ ら

 私の母は保母さんをやってた。なので、子供に対しての接し方はとても上手だと思う。そんな母に教えてもらった事は沢山ある。教育されていくうちに、自分に身に付いた事はあるし、感謝したい。そして私が今こうなっていなかったら、もっと教えてもらいたいことが沢山あるし、これからは逆にやってもらった事をやってあげたい。態度や行動で示していかないといけないなと本当に思います。実家に居た時は、母の日にはお母さんが大好きなチョコレートやマグカップなどをプレゼントしていました。また、こういう日がくればいいなあと思っていました。子育てを一緒にしたかったし、教えてもらいたかった。これからもそういう事があるように、そうなるように頑張って、現在施設にいる愛娘と一緒に会える生活を送り、自分を取り戻して、娘にとっての「良い母」になれるよう、努力し続けます。

 父の日を祝ってあげた事もあります。お父さんはタバコが好きだから、手作りの灰皿を作ってあげたり、食べ物ではなく物や、小さい時には「肩叩き券」でした。父は一回も使うことはなかったけど、毎年「お疲れ様、いつもありがとう」という言葉がちゃんと出ていました。嫌いなはず、怖い存在のはずなのに、心から感謝の言葉が出ていました。今、こうして改めて思うと、嫌いじゃないと思います。ただ、罪悪感があり、こじつけて「嫌い」という言葉で片づけてしまっている事に気づきました。今会って話せるなら、「いつまでも健康で元気でいてね」と言いたいし、「ごめんなさい」の一言も言いたいです。やはり言葉じゃなく、行動で示さなくちゃ何も伝わらないし、もう本当に会えないのかもしれない。だから祈っています。母も父も毎日健康で元気に暮らしてますように、と。これからは愛娘を、その分いっぱい愛し、寂しい思いをさせないようにしようと思っています。

受刑者からの手紙

早く潮騒に戻り塀の中に居る仲間を助けない

シュンさんお元気ですか。高校での学業を“ENJOY”されていますか。先頃は心温まる気持ちの籠った手紙を頂きまして、本当にありがとう。感謝の気持ちで胸がいっぱいです。さて先日の事です、私はいつものように“このくらいは大丈夫”と思い、当たり前の日常生活をしていたところ、注意・指導を1週間に1度のペースでもらいました。工場担当が代わり、様子も変わったのです。先輩方は半分以上が仮釈放され、新しい囚が次々と入り、それに伴って“新体制”となりました。以前の生活では“これくらい”OKだった事が不可となったのです。それまで私が当たり前のように振る舞っていた事が注意、指導され、自分自身ブルーに陥りました。以前の私でしたら何か一言担当に言って反論していたのに、それが無かった事に自分自身が驚いております。素直に謝り、心の中で2度と同じ間違いはしたくないと思うのです。何故なのか？怒られた時すぐにシュンさんや栗原センター長、潮騒の事が頭をよぎり、「無事故で潮騒に帰るんだ」「早くみんなの場所に戻るんだ」…そんな事が浮かんだんですよ。

話は変わりますが、シュンさんの手紙の中に「(潮騒JTCの)中施設(主に薬物依存症者のナイトケアに利用)での生活を覚えていますか?」とありましたが、答えは「勿論です」。毎日いろいろな“事件”があったのでしっかり覚えています。FとDがいつも事件の中心でした。特にFは禁止されている飲酒をしては弱い者に手を挙げるので、正義感の強い私はキレてしまい、Fを殴り“監禁”して問題になりました。あの時はシュンさんを投げ飛ばし、勢いよくFに向かい、殴った事をよく覚えています。懐かしいですね。

それとシュンさんは、まだ薬を使う夢は見ますか？私はいつも感じるのですが、今のシュンさんは薬物依存症には当たらないのではないですか。今、勉強に励み、高校生活を満喫しており、身も心も夢に向かって一直線…、もはや依存という概念が消えているのではないのでしょうか。よく「自分一人では何もできない」と書かれていますが、決してそんな事はないと思います。シュンさんは既に自立を始めているのです。シュンさんの影響で、周囲も変わっているのです。決して「無力」ではないのです。少なからず私は大変に「リスペクト」しています。一日も早く潮騒に戻りまして、今度は私が高い塀の中に居る仲間の回復を手助けしていきたいのです。こんな気持ちになったのもシュンさんの手紙のお陰なのです。どうか私が帰郷するまでシュンさん、頑張ってくださいネ。背伸びせずに回復への情熱を失わず、謙虚で格好いいシュンさんが私は大好きです。(長崎県 I・K)

潮騒の一員として人生をやり直したい

私はT拘置所から当地へと移送され、受刑生活を余儀なくされています。今回、覚醒剤にて受刑3年の判決を受けている身ではありますが、また塀の中に逆戻りしてしまった事への後悔があるからこそ、今度こそは覚醒剤を止め続けていく為に、潮騒の一員として人生をやり直したいと思っています。その為に潮騒の方で、出所と共に世話になりたいと思っているので、身元引受人を栗原先生にしたいと思っていますので、その辺宜しく願いできますでしょうか。私は一日でも早い出所を望んでいますので、工場での生活、舎房での生活に気を付けて、生活しています。工場では洗濯バサミを作る作業をしているのですが、正直気が遠くなる作業であるとしても、通らなければならない道故に頑張っています。

やはり、こういう中に居る事で全てにおいてマイナスになっている訳で、ならば仮釈放を貰って出所したい、と。だからこそ、身元引受人を栗原先生にお願いしたのです。過去の栗原先生のように、私自身も塀の中を出たり入ったりしている訳ですが、もう懲り懲りしている訳ですので、どうしても自分一人だけでは同じ事の繰り返しになってしまう訳で、先生の力が必要です。その為に、潮騒の「一員となって生活をしていきたいと思っていますので、このような己自身ではありますが、どうか宜しくお願いします。(長崎県 Y・K)

6月から刑の一部執行猶予制度が施行されました。いくつかの裁判所で、この制度を反映した判決が出ています。今後は受け皿としてダルクが期待されますが、吉と出るか凶と出るか方向性は未定です。課題を指摘する懸念の声もありますが、「依存症は病気、罰よりも治療と福祉のケアを」と訴える潮騒にとっては、社会内での処遇に道を開くものと好意的に受け止めています。

薬物依存を克服した時こそ自分の人生になる

センターの皆様、お元気でお過ごしのことと思います。私の刑期や満期日等は既に伝えてあると思うのですが、栗原さんの身元引受が許可され分類の方より告知を受けました。その前に潮騒で薬物依存回復プログラムを受ける決意があるかどうかと云う作文を、分類を通して保護観察所に提出致しました。その作文が栗原さんの目に留まるのかどうか分かりませんが、私の依存症は薬物というよりも、幼い頃より親や家族に甘えて育って来てしまった家庭環境に原因があると自己分析しています。

この病はもう私個人の力では治す事はできないと自分の中では結論づけております。現代医学では不治の病とされる病気も数々ありますが、この依存症もある意味、その病の一種かと思えます。そうでなければ私をはじめとして何万人という人達が、この辛い受刑生活を同じ薬物犯で何回も繰り返す事はないと思うのです。一度、薬物の虜になってしまった人達にとって、薬をやめると云う事は、簡単な事ではないという事が私は今、自分自身の身を通してハッキリと自覚してまいりました。この病には、同じ病で苦しむ仲間達と共に力を合わせて克服して行く以外に道はない、と思っています。だから、これからの残刑で今一度、自分を見つめ出所してから13カ月の依存回復プログラムを受け、それから本当の意味での薬物を絶ち切る自分の病との戦いを、これからの人生でしていきたいと思うし、克服した時こそ自分の人生が本当の自分の人生になると思っております。私の幸せはその日から始まると思っているし、その日の為に必ず立ち直りたいと思うので、どうか栗原さん、力を貸してください。これから夏に向かって、私達懲役にはちょっと辛い季節となりますが、私は間もなく56歳になります。20歳を過ぎて36年…、もう受刑年数も受刑地も忘れる程です。本当にこの辺りで人生を考え直さないと、刑務所で一生が終わってしまうので焦りも感じるのですが、とにかく依存症を克服しない事には何も始まらないと思うので、今はそれだけを考えて一日一日を大事に生きていきます。

(長崎県 Y・K)

潮騒との縁で自分と向き合うチャンスができた

藤や躑躅(つつじ)の花が終わり紫陽花の彩りが見頃の季節となりました。この頃の私は季節の移ろいや空の色、目の前の自然が心に染み入るようになりました。まず報告ですが、先月末に身元引受の許可が下りました。ご心配をお掛けして申し訳ありません。本当にありがとうございます。至らない私ですが、改めて宜しくお願いします。家族も信用も財産も行き場も全て失った現在の私ですが、これからは、また一つ一つ積み上げて、仲間を大切に生きていく所存です。

先日、郵送頂いた潮騒の啓発冊子や資料、ニュースレターが手元に届きました。今は雑居にて生活しているので、なかなか集中して読む時間ができないのですが、教育課に頼んで教育教材としての許可が下りたので、これからは時間を掛けてかみ砕いて勉強していこうと思っています。

私はおおよそ小学校の高学年には酒、たばこ、シンナー、大麻を覚え、16歳で薬物絡みの事件で少年院に送致されて、その後すぐに覚醒剤を覚えて現在まで7回も服役しているにも拘わらず、今まで薬物を自力で止めることができませんでした。ですが、今までの人生では自分自身が薬害と向き合おうとは思ったことがなく、今回はこうして潮騒さんとも出会い、関わり合うことが出来たので、自分と向き合うチャンスが出来たことを前向きに考えて、残刑期中にもしっかりと勉強しようと思います。

一昨年逮捕の直前に、自分にとって最後の肉親である父親が末期がんで亡くなって、帰る場所も財産の全ても(不動産、友人とトラブル中ですが…)失ってしまった今が、もしかしたら自分にとって再出発のチャンスなのかな、とこの頃思えるようになりました。きっとそうなのでしょう。

(神奈川県 U・T)

しおさい俳壇

6 月のお題

蛩

選者 桐本石見

受刑者の俳句作品&選評

(評：桐本石見)

今回は栗原センター長の我が俳句人生を休載して、受刑者から送られた手紙と俳句作品を掲載します。以前に比べると、受刑者の皆さんからの投句が減っています。これを機会に受刑者の皆さん、俳句作りにチャレンジしてみてください。



栗原センター長はじめスタッフの皆様、何時も有難う御座います。身柄引受人の件、感謝して居ります。折角、柄受人が許可に成ったと言うのに私は長期入院で、もう 1 カ月以上も入院生活を続けて居ります。此のままで此処が終の棲家と成りそうです。満期まで 1 年 3 カ月ですので少し体を動かしたいのですが、肝臓、腎臓には身体をやすめる事が治療となるそうなので、困った病気ですが仕方ありませんので静養に励もうと思っています。此処の医者に、掛かり付け医者の事を聴かれましたが、茨城に「潮騒ジョブトレーニングセンター」という介護付きの施設があることを伝えて有ります。

栗原センター長、どうか分かっておいてください。私には潮騒ジョブしかないのです。最後に、しゅんさん俳句の本届きました。本当に有難う御座いました。折角送って頂いたので、下手な俳句を三句作ったので送ります。また時々見計らって良いのが出来たら送ります。何時も栗原センター長、しゅんさん、チハルさん、忙しい中済みません。感謝しています。こんな男ですが、生きている間、面倒を見てやってください。下手な俳句ですが、少しずつ上手に成る様に頑張りますので、こちらの指導も宜しくお願いします。(愛知県 M・K)

み吉野や笑顔ゆるる錦鯉 (原句：みよし野に笑顔揺れてる錦鯉)

奈良県吉野町は南朝や義経、太閤秀吉の花見、西行庵など歴史も古く今も桜の花見で名高い。その吉野の旅か或は縁の方の詠かも。錦鯉は郡山市や新潟が名高いが、吉野山の寺院の池の錦鯉も他で観るのより奥床しく、華やかなのも夏の季に相応しい句です。

短夜やこの手届かぬ母の顔 (原句：母の顔届かぬ此の手恭敬)

原句には季語がないので、夏の短い夜の夢などを想い一句としました。母の夢に手を伸べて触れたいが、出来ない。また面会の窓で言葉を交わしても顔には触れない。それらを思い切々の詠になります。

ひな祭り母思い出す錦織 (原句：ひな祭り母思い出す鯉幟)

雛祭は平安時代宮廷で女子の遊びや祓いが江戸時代に一般化したとも。雛流しなどは自分の穢れを代りに川などへ流す意でもある。錦織は今でも高価で昔は高貴の方の装いであった。雛祭に着せて貰ったのか、母が召されていたのか、何れにしても子の日を偲ぶ句です。

故里の

土手ゆく螢
道しるべ

めい

今では螢もあまり見掛けませんが、以前は田川や小川の土手などを行くと多くの螢が飛び交い、子供には幻想的な思いであつた。もう十年前に帰省して里の螢を見ましたが、初恋の思い出など懐かしい句です。

特選句

螢にも

源氏平家や
壇ノ浦

ひろ

日本には他にも宇治螢、姫螢、まど螢、オバ螢など約四十種の螢がいると言われるが、大方は源氏、平家螢である。源平以前は何螢と言ったのか知れぬが、面白い名付けでもあります。その螢を見ながら壇ノ浦に亡んだ平家を偲ぶ句でもあります。

特選句

螢火の

思い出いまも
一家族

おの

この近くで螢を見れるのは、潮来の水原や牛堀の島崎である、句の作者の故郷は何処だろうか、子供達を連れて、螢狩りに出掛けた日が懐かしい。今では遊びも多くあるが、こうした自然への触れ合いが心を癒す。懐かしく微笑ましい句でもあります。

特選句

秀逸句

今月の秀逸句

螢火に包まれ眠る家一つ

ひろ

家を包むほどの螢はかなりの群れを想いますが、私の子供の頃の家は川の近くで、多くの螢にそんな思いもしましたし、現実でなくも願望のメルヘンでもあります。また童話の国を思う句で里が懐かしい。

命亡き者の浮ぶや螢川

もと

螢は大きな川より小川や山川の清流に棲む。そこは又燈火も無く暗いが、螢の火の映る流れにふと亡くなった人の顔を思い浮かべる。螢には万葉集の様に恋の歌もあるが、こうした亡者への思いもある。

まぼろしの平家螢の舞ふ夜かな

こば

螢には源氏と平家があり、今では源氏螢が多いとも。その螢の舞うを見ていると、鶴越、屋島、そして壇ノ浦に亡んだ平家の亡霊ならず螢が舞う様にも思える、平家物語の哀れを偲ぶ句でもあります。

夏蝶の己忘るる高さかな

いち

蝶は俳句では春の季語だが、季を冠り夏、秋、冬にも配する。中でも夏は飛びも高く活動的でもある、その

蝶が自分を忘れる高さまで舞上るのも面白い表現で、夏の晴天や登山をした思いの句です。

風呂上りむかし螢の門辺かな

とし

今では家の近くで螢が見れる所は少ないが、昔の里では句の様な光景でもあつた。また蚊も出るのでぼろ切れで蚊取り線香の代りに燻ぶらせたりもした。懐かしい句です。

螢火や遊び暮たる印旛沼

みく

印旛沼は昔はW形の沼だったが、江戸時代に利根川が今の流れに変更された後洪水で難渋した。そこで干拓と江戸湾への放水路を計画したが、完成したのは昭和四十四年と伝わる。佐倉宗吾と甚平衛渡しなど名高い。夕べまでそこに遊び螢も見れたのか、私にも懐かしい句。

螢火や音無き闇の声を聞く

ゆたか

虫や鳥が飛べば少しは羽音もするかもしれないが、人には聞こえないほど小さいかも。闇に飛ぶ螢はどんな羽音であろうか、少しのメルヘンを込めて面白い句です。

佳作

手妻師の袖より螢宵の寄席
薄き火の螢追ひつつ道しるべ
夜となりて明るさ競ふ螢かな
この里に螢の季節きれいだな
今宵はや螢のとべる美しき

もと
まこ
かこ
なあな
いるか

宵闇に沁みる静けさ螢の火
螢がねきらきら光る宵の道
今の夜に螢見るのも奇跡かな
飛び交へる螢螢の囁道
夜の道の誘われ行きて群れ螢

れいこ
アミ
しま
みく
そら

どっこい私も生きてます～我が回復記～「トンちゃんの回復記」

第4回

事故死扱いにならなかった理不尽な次兄の死

潮騒 JTC に繋がって回復の道を歩む今なら、夫婦生活が潰れた大きな要因に、自分にも父親と同じアルコール依存の深刻な問題があることに思いを馳せることができる。しかし、当時はあれよあれよという間に離婚話が進んだ。なかなか仕事が見つからない悪循環に焦っている自分を横目に、嫁の実家は世間体を気にして「ひと月も家でぶらぶらしているなんてみっともない」となじり、自分に「ダメ夫」の烙印を押した。やがて離婚成立…、20年以上も連れ添った嫁は自分への優しさなのか、別れ際に「生まれ変わっても一緒になろうね」とつぶやいた。自分は後ろ髪を引かれながら、結婚生活に終止符を打つしかなかった…。

その後、自分の人生は本格的な試練にさらされるようになった。好転の兆しは見えず、一度狂った人生の歯車は音を立てて軋むようになった。生きる気力を失い、新たな生活ビジョンが見えないまま、自分は実家に身を寄せた。当時、実家には次兄が暮らしていた。この兄はヤクザ人生を歩みながら、父親や自分と同じように依存症の深刻な問題を抱えていた。若い頃のシンナーにはじまり薬物へと依存、特に処方薬依存が半端ではなかった。一度に24錠も服用しては酩酊し、トラブルを起こした。そんな状態だから仕事にも就けなかった。生活は行き詰まっていたが、当時わずかながらも3・11東日本大震災の義援金や自分が造園屋の賃仕事で得た稼ぎで、なんとか兄弟二人の生活を維持していた。そんな折に事件は起こった—。

実家の敷地には母屋と離れがあり、普段兄は離れで生活していた。夕食後にくつろいでいると、警察官がやって来て「お兄さん、いますか?」と言う。「いますよ。離れに」。そう答えると、「先程そこで交通事故があり、お兄さんらしき人が病院に運ばれました」。「えっ、でも兄は家にいますよ。案内しますから」。その時、警察官の肩に掛けてあるマイクに連絡が入り、履物の確認があった。普段兄が吐いているぼっくり下駄だった。「じゃあ兄貴だ!」。すぐに搬送先の病院に駆けつけると、やはり次兄だった。その次兄は一週間後に亡くなった。当然ながら裁判で問題になったが、弁護士を立てて争ったものの、1週間後に病院で亡くなったことから兄の死は事故死とはならなかった。死因の特定でも有利に働かないなど、兄の処方薬依存は人生の幕引きにも暗い陰を落としたように思う。

理不尽な現実には怒りを覚えながらも、自分にはなく為す術がなかった。ぶつけようのない怒りを抱えたまま、たまたま近くのコンビニで酒を買い、自分は酩酊して警察に保護された。そして今度は警察から長兄の死が尋常ではない死に方だったことを知らされることになる。

(以下、次号に続く)

6月のバースデイ



セ
ン
爺
やる
気
が
な
い



キ
ヨ
がんばります



ト
ム
今日を新たに



ジュン
今日一日



エ
ビ
農業プログラムで頑張っています



ル
ミ
30になりました。

6月の行事予定

- 9日 潮騒俳句会
- 16日 第65回水郷潮来あやめ祭り見学
- 18日 秋元病院メッセージ
- 19日 みのわマック38周年記念感謝の集い
- 22日 小美玉市福祉関係者視察研修来所
- 24日 潮騒フラワーロード花植え
- 26日 潮騒家族会

7月の行事予定

- 10・16日 秋元病院メッセージ
- 14日 潮騒俳句会
- 17日 茨城ダルク24周年フォーラム
- 24日 潮騒家族会・ピアサポ祭り

編集後記

今号では、女性ハウス「るみの家」メンバーが母の日・父の日の感想を書いてくれた。読んで考えさせられた。人は生まれながらにヤク中やアル中になる訳ではない。薬物やアルコールに対する親和性や依存症に陥り易い因子はあれ、子供時代の生育環境がいかに依存症に影響するかを思い知らされた。共通する要因として、早くに親と死別したり、親と引き離されたり、虐待やネグレクトを受けるなど、家庭環境と親の愛情に満たされない中で育ったようだ。これだと、子供らしい自分勝手な自然感情が抑えられ、「私の方が悪いんだ…」と問題を自分にだけ内向化させてしまう。その結果、大人になっても自己評価が低く、ありのままの自分を肯定できなくなる。心に広がった孤独感を埋め合わせるため、人間関係や依存物質に嗜癖的な形でめり込んでいく。これが依存症の発症メカニズムだが、女性の場合は回復への潜在ニーズは高いのに、受け皿となる回復支援施設は極端に少ない。女性の場合、男女関係にのめり込みやすく、回復の前提になる「底つき」がしにくいことが背景にあるようだ。そんな中でも、感想文を書いてくれた女性メンバー達は親への感謝を失わない。その姿に心打たれた。考えてみれば、理想の家庭なんて結局はドラマの世界に過ぎない。どの家庭でも多かれ少なかれ問題を抱えている。世間体を気にして、これを隠す事に心血を注げば注ぐほど、矛盾が拡大してやがては爆発する。それを防ぐのは潮騒の真骨頂である「いい加減さ」を肯定するしかない。“ぐーたらな生き方”こそが救いだとか聞き直るのが必要条件だろう。それを実践できれば、機能不全家族の世代連鎖を断ち切ることができると思う。(市)

献金・献品を頂いた方 (6月15日現在)

〔献金〕

- ・内堀 高良 様
- ・大友 和子 様
- ・山下 佳子 様(美空野保育園)
- ・永山 清 様(AA メンバー)
- ・島田 正之 様(鹿島灘太鼓主宰)
- ・マヌエル・エルナンデス 様(イエズス会修道院)
- ・原 俊雄 様
- ・ファイン竹内宅建 様
- ・支援者紹介 様
- ・匿名希望 様

〔献品〕

- ・くるまや 様
- ・幸友住宅 様
- ・鹿島ガラス 様
- ・トーマス 様
- ・高田 高義 様
- ・遠藤 登輝子 様
- ・相談者(匿名希望) 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 **どっこい生きてます!** 2016年6号

Contents

- P② 初めて経験した仲間の措置入院について
- P③ 小美玉市薬乱防止委員が研修で来訪
- P④ ・潮騒アディクションセミナーに参加して
 - ・潮騒JTC11周年フォーラム・テーマが決まる
 - ・下津の潮騒フラワーロードに初夏の花植え
 - ・水郷潮来あやめ祭りに参加して
- P⑥ ユタカ VS トム 対談 第6回
 - 「荒波に船出した“鹿嶋潮騒ダルク”時代の思い出」
- P⑧ 女性のための回復施設「るみの家」女性のための回復施設
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「蜚」
- P⑭ どっこい私も生きてます「トンちゃんの回復記」第4回

■ 編集・発行：

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス銚田
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



